

第3回千葉市新庁舎整備シンポジウム質問回答

No.	質問	回答
1	新庁舎の延べ面積について、 ①49,400㎡を決めた経緯、検討等の説明をしてください。 ②現在の庁舎（3ヶ所に分散している）の面積との比較はどうか。	①基本計画策定時に国土交通省と総務省が策定した基準を基に面積を算定しました。基本設計着手時に、必要諸室を精査して、延べ面積を設定しています。 ②教育委員会等が入居するポートサイドタワーは賃借によるため、延べ床面積に廊下やトイレといった共用面積は含んでいません。そのため、一概に面積を比較することは困難ですが、本庁舎・議事堂棟の延べ床面積、千葉中央コミュニティセンターの庁舎利用面積、ポートサイドタワーの賃借面積を合わせた面積は約34,226㎡となります。 また、執務室面積のみの比較とした場合、現庁舎は約17,290㎡、新庁舎は14,770㎡となります。
2	市が区制を敷いて以来、大概の事は区役所で用が済む。市役所自体をこれだけの規模にする必要性は。	市役所の本庁は通常時には市政運営の拠点として政策・施策の企画立案や事務事業の執行を行います。また、非常時には市の総合防災拠点として司令塔の役割を果たします。通常時・非常時とも必要な業務を執行するために必要な規模を算出しています。
3	日常働く市職員の数（要は職員一人あたりの使用平米数）は。	職員数は2,288人です（基本設計に用いた職員数。平成29年3月31日時点）。現在のプランで算出すると、一人当たりの執務面積は約6.5㎡になっています。
4	新庁舎は延49,400㎡で計画されていますが、現庁舎の規模を教えてください。	本庁舎・議事堂棟の延べ床面積、千葉中央コミュニティセンターの庁舎利用面積、ポートサイドタワーの賃借面積を合わせた面積は約34,226㎡となります。
5	人口減少等の本件に対する考え方を願う。	将来の人口動態等により、行政に対する社会ニーズが変化することが見込まれます。このことから、行政組織の変更や業務形態の変化などに柔軟に対応できる設計としております。
6	人口動態変化に十分に対応しているか。	将来の人口動態等により、行政に対する社会ニーズが変化することが見込まれます。このことから、行政組織の変更や業務形態の変化などに柔軟に対応できる設計としております。
7	I Tに十分に対応しているか。	新庁舎においては、デジタルサイネージなどによりイベント情報や災害状況など、市民へ向けた情報発信についてI T化を検討しています。詳細については実施設計にて検討してまいります。
8	人の移動、グローバル化に対応しているか。	グローバル化に対する取組みの一つとして、建物内の標識などのサインの多言語化が挙げられます。新庁舎に置いてはユニバーサルデザインを採用するなど国籍などに関わらず多様な来庁者にとって使いやすく利便性の高い庁舎を目指すこととしています。例えば、サインに表記される言語は、日本語以外に3か国語（英語、中国語、韓国語）を想定しており、また、直観的にわかりやすいピクトグラム（絵文字）を併用します。
9	新庁舎整備方針の決定はどのように行われるのか。	平成29年11月に新庁舎整備の事業方針を発表したところであり、平成30年度から設計・施工一括発注によるデザイン・ビルド（以下、DB）方式により、事業を進めてまいります。
10	実施スケジュールについて伺いたい。	平成35年度の供用開始を目指し、平成30年度から設計・施工一括発注によるDB方式により、事業を進めてまいります。
11	整備手法の検討状況を教えてください。	今年度実施しているP F I等導入可能性調査の結果を踏まえ、供用開始までのスケジュールが短く、最も事業費の縮減を見込むことができる、DB方式に決定しました。
12	仮にDB方式となった場合には基本設計者（久米設計・隈事務所）はどう関わるのか。	DB方式により整備を行う方針を決定を行いましたが、基本設計者の取り扱いなどについては今後整理してまいります。
13	基本設計が完了しましたが、実施設計工事着手の予定は確定しているのか。	平成30年度から設計・施工一括発注によるDB方式により、事業を進めてまいります。
14	解体工事費はいくらか。コスト高ではないのか。	発注情報に当たるため、個々の工事の内訳はお示しできませんが、基本設計の事業費については十分精査を行ったところです。
15	E C OやB C Pに対しては、非常に配慮を感じるが、事業費の内収まっているのか。	環境配慮やB C Pに係るコストについては基本設計の概算事業費307億円に含んでおります。
16	長期的にみて、新築するコストの方が、賃貸等の他の方法よりもコストがかからない点について、説明してほしい。	平成25年度に本庁舎整備方策検討基礎調査を実施し、8つの検討ケースを設定し、改修や新築を行った場合、本庁舎や議事堂棟など個々の建物の性能がどの程度確保されるのか、複数の建物に分散化することでどのような影響があるのか、さらに4 h aの本庁舎敷地がどのように有効利用できるのかなど、建物性能、建物利用及び敷地利用の3つの視点から定性的評価を行いました。その結果、現敷地に建設する方策がコスト・機能の両面で最も最適であるとの結果となりました。 （詳細は本庁舎整備方策検討基礎調査をご覧ください。）
17	ランニングコストの低減について。検討にあたっては、インフラ企業による民間企業へ相談しているのか教えてください。	インフラ供給企業及び設備機器メーカーへのヒアリングを行い、可能な限り省エネルギーに配慮した基本設計を行っています。

No.	質問	回答
18	ランニングコストについて。設計者から清掃・ガラス等執務階はガラス面積を抑えている等説明があったが、ウェートの大きい要素は空調、エレベーター、電気設備等の設備計画なので基本計画に各システム等の比較検証評価が求められる。	各種設備方式・設備機器選定については、省エネルギー性、維持管理のしやすさ、非常時の機能維持のしやすさ、ライフサイクルコスト等を比較検討の上、基本設計を行っています。
19	この建物は何年で償却を考えているのか。	新庁舎の使用期間については、建物の構造により異なりますが、設備機器等の更新や維持管理が容易な庁舎とするとともに、計画的保全を実施することにより、長期間にわたって使用できる施設となるよう、取り組んで参ります。
20	長期間とは、具体的には何年ぐらいを考えているのか。	新庁舎の使用期間については、建物の構造により異なりますが、設備機器等の更新や維持管理が容易な庁舎とするとともに、計画的保全を実施することにより、長期間にわたって使用できる施設となるよう、取り組んで参ります。
21	活用検討地について求める機能は何か。	現時点では未定です。
22	将来活用計画地は、どのようなものと考えているか。	現時点では未定です。
23	将来活用検討地を設定した理由と想定している活用法を知りたい。	現本庁舎敷地（4ha）に対し、新庁舎敷地として設定した残りの用地について、将来活用をする用地として設定しました。具体的な活用方法については現時点では未定です。
24	建物の配置を何故L字型にしたのか。	モノレール駅から新庁舎へのアクセス性など来庁者の利便性や、本庁舎敷地の将来利用、本庁舎周辺エリアのまちづくりへの寄与といった観点から、みなと公園及びプロムナードに面する沿道型の建物配置を採用しました。 （詳細につきましては基本設計方針をご覧ください。）
25	現在、駐車場入り口は3ヶ所あるが、新計画では、一般1ヶ所、公用1ヶ所となり、限定されて使用しづらいと思う。モノレール側入り口は交通量が多く、JR千葉駅側から右折がしづらい。道路にゼブラゾーンを設けて欲しい。	資料の表示に誤りがありました。新庁舎敷地の自動車用出入り口は、2か所とも来庁者の出入りが可能です。ゼブラゾーンの設置については今後検討してまいります。
26	高層棟・低層棟が入り組んだL型平面になっていますが、一体の免震構造とするのか。エクспанジョン・ジョイント（※1）を設けるのも難しそうに見える。	建物全体で一体の免震構造としており、エクспанジョン・ジョイントを設けない基本設計となっています。
27	中間免震から床免震構造とした理由について。	基本設計者選定の際、事業者より津波への対策等の観点から中間免震の提案がありました。基本設計の検討を進めるにあたり、津波の被害は見込まれないことが判明したことから、耐震性能の高い基礎免震を採用しました。
28	免震構造を可能にするゴムが震災で壊れ、取り換えが困難だという話を見たことがある。免震構造を取った建物は、壁等の厚みを減らすという話も聞いた。埋立地は揺れも強い。高層棟が11階建てと超高層建築ではないなら、耐震構造で頑丈に建てた方が良くないのか。	耐震構造は揺れの影響を大きく受け、家具転倒等により業務の継続性が損なわれる可能性があるため、揺れが低減される基礎免震構造を採用しています。
29	免震構造の高層棟と低層棟の接合部はどのように来庁者の安全性に配慮しているのですか。	建物全体で一体の免震構造としており、来庁者の安全性は確保されております。
30	免震構造の長周期地震動への対策について。	国から公表されている長周期地震動も考慮した構造の基本設計となっています。
31	敷地が広いのに、屋上にヘリポートを設けている理由が知りたい。（ドクターヘリ想定だと、患者が救急車で運ばれ、エレベーターで屋上まで上げるのは時間がかかる。またエレベーターの広さなどの仕様にも影響が出ること、上層階の建物強度も上げなければならぬので、コスト増ではないのか。液状化対策のためか。）	火災発生時の消防活動用のヘリポートとして設置しています。今後、関係機関と協議のうえ、災害発生時における物資の供給、緊急搬送にも活用していきたいと考えております。
32	津波の高さは何mと想定しているのか。市民エリアは水没するのでは。屋上利用との連携を加えるべきではないのか。	東京湾口に10mクラスの津波が襲来した場合の浸水予測では、津波は到達時に2.9mまで減衰すると予測されており、沿岸部の防波堤の高さを下回ることから、浸水被害は見込まれておりません。
33	津波を考慮して、自家発電機室、オイルタンク等を2階に配されたと思われるが、2階床面の海拔からの標高はいくらか。津波の高さは何mを想定しているか知りたい。	2階床面の海拔からの標高はティー・ピー（※2）+約8.9mとなります。津波が本庁舎敷地近くの沿岸部に到達するときには、高さが2.9mまで減衰すると予測されており、本庁舎敷地への津波の到達はないと予測されています。
34	震災に対する対策が、色々と備わっている事は分かったが、下水が被災した場合、汚水の処理の対策はされているのか。	下水道が機能しない場合に備え、一時的に汚水を溜められる「災害用汚水槽」を設けております。
35	耐震設計は大丈夫だと思いますが、南海トラフ首都直下型地震時に起こるであろう津波（3～5m程度）についての対策はできているのか。	津波が本庁舎敷地近くの沿岸部に到達するときには、高さが2.9mまで減衰すると予測されており、本庁舎敷地への津波の到達はないと予測されています。

No.	質問	回答
36	市民の避難場所や備蓄倉庫の計画はあるのか。	本庁舎は市民の避難場所としての運用は想定していません。ただし、帰宅困難者等の一時的な避難者は受入れられるよう計画しています。防災備蓄倉庫は1階に設置予定です。
37	非常用発電機用燃料を3日分備蓄と書いてあるが、3日を超えてオイルがなくなった場合、太陽光とコージェネレーションシステムで、必要量の何%をまかなえるのか。	必要量の約3%まかなえる見込みです。なお、災害時における石油類燃料供給協力を定めた「災害時における石油類燃料の供給に関する協定」を千葉県石油商業組合千葉支部と締結していることから、非常時においても燃料供給を受けられることを想定しています。
38	近隣国からのミサイルを使用した攻撃が懸念される中、地下はないのか。高潮を考えての計画か。	外国からのミサイル攻撃については考慮しておりません。本基本設計では、高潮被害の可能性を考慮し、地下階は設定しておりません。
39	津波の波の圧力に対して鉄骨造で良いのか。流されるのが前提では困る。防波壁等考えるべきではないか。	津波が本庁舎敷地近くの沿岸部に到達するときには、高さが2.9mまで減衰すると予測されており、本庁舎敷地への津波の到達はないと予測されています。
40	木材利用についてのお話が聞きたい。どこに使うか。千葉の木を使うのか。	低層棟の一部及び屋外デッキ部分の天井に木材を採用予定です。使用する木材については実施設計において検討してまいります。
41	木質化において、地域地元材、ちばの木認証材など、千葉の山の木を使用する計画があるのか。(外、内装材として)外国の木などなく、できれば千葉県産材を使っていきたい。	使用する木材については実施設計において検討してまいります。
42	執務室の空調は、天井型ではなく床から吹き出すタイプとのことだが、機能面で見た時にデメリットはないのか。(室温管理がしづらい等)	床吹出空調は、冷暖房空気の送風のために二重床の高さを確保する必要があること、吹出口が固定されるため組織変更などで執務室のレイアウトが大きく変わった際に対応しづらいことがデメリットになります。室温管理については、大部屋内の50～60㎡単位での管理を想定しており、大部屋全体で一律の空調制御とならないよう配慮しています。一方メリットとして、部屋全体ではなく、人がいる高さの居住域部分に対し空調管理ができるため、省エネルギー性に優れていること、また設備機器も少ないため、イニシャル・ランニングコストともに抑えることができる、などがあげられます。
43	書類の保管スペースは確保できているのか。	各階に書類収納スペースを計画しています。また、11階には集密書庫を計画しています。
44	エレベータは、各箇所(A・B・C)に何台設置するのか?1台という認識でいいのか。	高層棟(A)の箇所ではエレベータ4基、建物中央部(B)と低層棟(C)の箇所にはそれぞれ3基ずつ設置します。
45	基本計画(フィジビリティ)で執務室の空調吹き出しが床下からと説明があったが、失敗例が多く、改善して運用している事実もあるので、具体的な検討が必要である。また、この段階でのシミュレーションが肝要。	今後実施設計において床吹出空調のシミュレーション等の検証を行い、検討してまいります。
46	P14の執務室のイメージから類推すると業務上、市民はこのカウンターで対応するのか。右側にあるスペースも打合せに使えるように伺えるが、職員と市民との会話はどこで行えるのか。	P14に示してあるカウンターの他に打合せコーナーとして相談室を設けてあります(P7参照)。
47	設計上で障がい者への配慮を教えてください。	利用者の年齢、障害の有無に関わらず安全に利用できるユニバーサルデザインの庁舎を目指し、「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」及び「千葉県福祉のまちづくり条例」に準拠し計画しています。 トイレ：各階に多目的トイレを設置します。 駐車場：来庁者の出入口の直近に、身障者用駐車場を設置し(全体台数の2%以上)、雨掛かりなく利用できるように庇を設けます。 議会：車椅子で利用できる傍聴スペースを設けます。 通路・階段・出入口：十分な幅員を設けます。 その他：視覚障害者、聴覚障害者の方への配慮として、火災時に異常を知らせるために、トイレにフラッシュライトを設置し、点滅型誘導灯により避難経路を案内します。
48	イニシャルコストが掛かってもランニングコストを抑える考えもある。昨今のゼロエネルギー(ZEB)の考えはあるか。	ZEBの実現・普及に向けたガイドラインで対象にしている事務所規模は中規模(10,000㎡)と小規模(2,000㎡)のみであり、新庁舎の規模(約50,000㎡)の計画に対してZEBの具体的な検証を実施するのは困難です。環境負荷低減方策については、今後も引き続き配慮を行います。
49	将来活用検討地との連携ということで、さくら広場がどう機能していくと想定しているのか。	将来、将来活用検討地の活用方法が決定した際に、新庁舎と将来活用検討地の共通のエントランス広場として機能するよう配慮しています。具体的には、境界部に植栽などを設けず、さくら広場と将来活用検討地の間を、スムーズに往来できるよう配慮しています。

No.	質問	回答
50	近隣マンション、みなと公園への日照の影響について	本基本設計における計画建物では、午前8時台に近隣マンション及びみなと公園の一部に日影の影響が認められます。影響の範囲については、別添日影図をご覧ください。
51	やはり執務がメインになってくるとは思います、働き方改革等、設計で工夫されている点があるか。	執務空間を3つのゾーニングにより明確に役割を分けています。 ①みなと公園側は「執務ゾーン」とし、柱のない自由度の高い空間とすることで、レイアウトの変更などに柔軟に対応できます。 ②中央部は「マルチゾーン」とし通路や窓口、相談室などを配置します。 ③駐車場側は「サポートゾーン」とし、階段・エレベーター・トイレや機械室などといったインフラを集約します。 また、執務ゾーンはユニバーサルレイアウトを基本としています。ユニバーサルレイアウトのメリットとしては、デスクを均一・合理的に配置するため、スペースに無駄が生じず、高密度にデスクを配置できるため、フロアを有効に活用できること、組織改正があった場合にも、LAN・電話の配線工事や執務机・書棚の移設が不要であることなどが挙げられます。
52	基本設計において隈先生ならではの工夫や発想があれば教えてほしい。	本基本設計では、「政令指定都市の本庁舎にふさわしい機能を備えた庁舎」、「まち・人・緑をつなぐシティ・ホール」をコンセプトに、建物構造や配置、階層構成、デザインなどを整理しました。 具体的には、市議会や窓口など来庁者利用が多い機能をモノレール駅と隣接する臨港プロムナード沿いの低層棟に配置し、市民に開かれたシティ・ホールとして、来庁者の利便性の向上を図っております。 さらに、市民センターや食堂、イベントスペースなどの低層階への配置や、壁面緑化の整備など周辺の緑と調和した景観形成を図ることにより、公共空間としての賑わいや憩いが、周辺エリアのまちづくりにも寄与する計画としております。
53	執務室について天井を張らない理由は何か。	地震時に落下の恐れを防ぐため、天井を張らない方針としました。
54	千葉駅～市役所～港までグリーンベルトでつなぐ計画はあるのか。	現時点ではありません。
55	千葉市全体の街づくり（ランドデザイン）との整合性について聞きたい。	『千葉駅周辺の活性化ランドデザイン』では、市役所の立地するエリアについて、 ・臨港プロムナード沿いに賑わい機能を誘導すること ・千葉駅のリニューアルに伴う歩行環境・回遊性の充実 などの方向性を示しており、基本設計では、沿道型の建物配置とするとともに「まち」と「みなと」をつなぐ結節点として周辺エリアのまちづくりに寄与する内容であると認識しております。
56	役所に用事がない市民の居場所機能、ぜひ付与してほしい。そこに関して、市役所は千葉駅から距離があると思うが、「千葉駅」「市役所」「ポートタワー・港」など拠点と拠点を歩きたくなるような、エリア全体のにぎわい作りについて何か検討されているのか。	『千葉駅周辺の活性化ランドデザイン』では、市役所の立地するエリアについて、 ・臨港プロムナード沿いに賑わい機能を誘導すること ・千葉駅のリニューアルに伴う歩行環境・回遊性の充実 などの方向性を示しており、基本設計では、沿道型の建物配置とするとともに「まち」と「みなと」をつなぐ結節点として周辺エリアのまちづくりに寄与する内容であると認識しております。
57	運用時の話かもしれないが、庁舎の効率的運営、省エネ化を図る為には、これからの時代はITによるデータの見える化（いわゆるIoTの活用）が当たり前になると思うが、それらに関する考え方について教えほしい。	IoTの活用を含む建物の運用などについては、今後実施設計に併せて検討してまいります。
58	千葉市のシンボルの花（大賀ハス）、千葉市のシンボルの鳥（コアジサシ）、加曽利貝塚等のPRスペース等考慮されているのか。	大賀ハス、コアジサシ、加曽利貝塚に限定したPRスペースは計画しておりませんが、イベントスペースや情報ステーション等で様々な市政情報を発信・提供できるよう今後検討してまいります。
59	ソフト面の充実が今後の課題かと思えます。人を引き付けるための工夫として、オープンスペースの開放時間のフリー化、カフェなどでタニタ食堂を誘致するなど必要かと思えますがいかがですか？	低層棟の1・2階にはカフェや食堂の設置を予定しておりますが、運営事業者や営業時間などに関することは今後検討してまいります。
60	屋上緑化は可ですが、無駄な庭園はやめてもらいたい。	現在庭園を設ける計画はありませんが、いただいたご意見も参考に整備を進めてまいります。
61	新庁舎の建設工事は、2020年のオリンピック関連工事の影響（建設コスト、人件費など）を受けたくない、オリンピック後とすべきと思うが。	建設物価の動向など社会経済情勢の変化等にも留意し、新庁舎の整備方針・スケジュールを決定しました。
62	塩害とビル風対策も考えて欲しい。	いただいたご意見を踏まえて実施設計以降検討してまいります。
63	運営・ソフト面について設計者に問うていたが、それは市側が準備すべきことと考える。千葉市では、新庁舎の運営・ソフトをどうしたいということをつくり、設計者にリクエストする組織はどこでしょうか。現在、そして今後、その組織はどのような事をし、どのように市民に開示・確認するのでしょうか。また、その人たちはもっと表に出てくるべきだと思う。	新庁舎の運用・ソフト面については全庁的に今後検討してまいります。

No.	質問	回答
64	司会者、シンプルな説明（進行の一部）が良かった。	-
65	古い域型が良いのか、駅近か、多目的施設が良いのか（豊島区役所の様な）、これからの縮むまちと時代の移り変わりを考えると少々気になる。	将来の人口構成や社会ニーズの変化があったとしても長期間にわたり効率的に使い続けることができるように、将来の変化への柔軟性の確保できるよう設計を行いました。また、平成25年度に本庁舎整備方策検討基礎調査を実施し、現敷地に建設する方策がコスト・機能の両面で最も最適であるとの結果となったため、現敷地での建設を予定しております。さらに、将来活用検討地の活用を考慮し、合築としておりません。
66	将来活用検討地について。当面駐車場とあるが、例えば、市民が活用できるスペース、テニスコートや障害者を含めたパラスポーツを楽しめるスペース等にすることも検討できないか。	将来活用検討地の具体的な活用方法については現時点では未定であり、今後検討してまいります。
67	新庁舎はまずまずよいと思う。目の前のコミュニティセンターはどうなるのか。役所集約できるならば、売却すべきでは。プールも車高1.7mしか入れない駐車場も不要では。将来活用検討地にこれらを入れるべき。無理ならば、民間フィットネスクラブに投げるべき。	千葉中央コミュニティセンターのあり方については今後検討してまいります。
68	本庁舎完成後10年後に同じメンバーで本事業の成否の公開検討委員会を開催してほしい。	本事業の進捗状況については適切なタイミングで市民の皆様へ周知してまいります。
69	すばらしい設計で誇れる本庁舎だと思うが、本事業は、社会構造変化（人口動態）、経済構造変化（グローバル化とIT、2020年までの東京オリンピック需要とその後の景気後退懸念）を十分に考慮されていない。現実に、JR千葉駅（駅ナカ）に人が集中し、千葉駅周辺～千葉港は恐ろしいほど人がまばらになっています。災害時の帰宅難民にしても新庁舎への集客にしても、人口減少の中で、どの年代をターゲットにしているのか不明確。	本事業は将来の人口構成や社会ニーズの変化への対応や、長期間にわたり効率的に使い続けることができることなど、将来の変化への柔軟性の確保できるよう設計を行いました。また本庁舎はJR千葉駅周辺エリアと千葉港エリアの中間に位置することから、「まち」と「みなと」をつなぐ結節点として周辺エリアのまちづくりに寄与するよう整備を進めてまいります。
70	今年は夏場の日照時間が少なかった。海浜幕張駅に採用されているような、風力発電も取り入れてはどうか。浜風を生かせる。	検討の結果、風力発電は費用対効果が低く、騒音の問題も大きいため不採用となりました。自然エネルギーについては、立地特性やコストを考慮し、太陽光発電・地中熱を導入予定です。
71	残念ながら説明内容は時代の流れに対し中途半端に感ずる。防災もピント外れ。この建物は千葉駅を意識しすぎて、京葉線に比重が移っており、歩行者、電車利用者に配慮がない。これから人口減少でまちが縮んだ時のあり方を考えるとこのような独立型でなく多目的公共施設にし、将来施設と併せて柔軟性を上げるべきだ。これでは基本設計者の技量も発揮できないと思う。市のリードが悪いのではないか。	本庁舎は公用施設であり、通常時には市政運営の拠点として、非常時には総合防災拠点として機能する必要があるため利用目的の異なる施設との複合化は考慮しておりません。将来の人口構成や社会ニーズの変化への対応や、長期間にわたり効率的に使い続けることができることなど、将来の変化への柔軟性の確保できるよう設計を行いました。
72	建物（旧市庁舎）の構造問題もあり、地震などの災害がいつ来るか分からない。一日も早い新庁舎の竣工を希望する。	平成35年度の供用開始を目指し、今後整備を進めてまいります。
73	みなと公園と連携するには、ペDESTリアンで結ぶべき。防波壁の役目をもたせては。	津波の影響について、津波が本庁舎敷地近くの沿岸部に到達するときには、高さが2.9mまで減衰すると予測されており、本庁舎敷地への津波の到達はないと予測されています。みなと公園との連携については、いただいたご意見を踏まえて今後検討してまいります。
74	海側からの外観が強調されるが、多くの市民は陸側からのアプローチするはずで、駐車場側のファザードがさみしいと思う。北面は日影にもなり、暗いイメージが予想される。	本基本設計では、臨港プロムナード側に正面性を持たせて設計を行いました。
75	高層棟の壁面色をマリンカラーにしてもらいたい。現在の概観は港町らしい。	壁面の色については、今後実施設計の中で検討してまいります。
76	中央区役所をきぼ一へ移転する計画があるが、本庁舎の整備との関係はあるのか。	新庁舎整備との関係はございません。中央区役所の移転は、千葉都心の市街地活性化及び市民の利便性向上に向けて、中央区役所及びきぼ一の各施設が抱える課題解決に向けた一体的な取組みとして、美術館の拡充及びビジネス支援センターの移転と併せて実施するものです。
77	市の機能を集約することはよい。利便性を考えた時に千葉駅等に出張所を再度設けてほしい。	千葉駅連絡所につきましては、JR千葉駅の建て替えに伴い、JR敷地内から撤去する必要があったことから平成29年2月26日をもって廃止いたしました。本市ではマイナンバーカードの機能を活用し、住民票の写し・印鑑登録証明書・戸籍全部事項証明書・戸籍個人事項証明書・市県民税所得証明書（最新年度分）など取得できるコンビニ交付サービスを行っております。そちらをご利用ください。

※1 エクスパンジョン・ジョイント…構造物相互を緊結せずに接続する方法。地震時にお互いの建物が影響し合わないよう隙間を空ける。

※2 ティー・ピー…東京湾平均海面（Tokyo Peil）。陸地の標高の基準である。